

審査の結果の要旨

氏名 坂田 一郎

本論文は、工学、経済史、技術経営、経済地理を横断した俯瞰的視座から、地域経済圏をテーマとして、その再生方策を検討している。分析手法の中心としては、独自の「産学官クラスター構造モデル」を基盤とした主成分分析とグラフィカルモデリングによって我が国経済圏の計量的な診断を行い、その結果とクラスター化で先行した内外の経済圏のフィールド調査から明らかになった内部構造等とを比較検討することにより結論を導く方式を用いている。結論として、知縁社会と知識化経済の両特性を併せ持つ「クラスター型地域経済圏」と知識の流路によりこれらを連結した国土像「連結された多極型クラスター構造」の形成、及びこれの形成に必要な普遍的6条件の提案を行っている。

分析から得られた結論は、次の三点である。第一に、我が国の地域経済圏の現状を評価すると、その多くが、「クラスター」又はそれに代表される“知縁社会”としての特性を持たず、工業化時代の構造のままにとどまっているということである。第二に、浜松経済圏、京都経済圏などのように、我が国の中にもクラスター化の先進事例と考えられる地域経済圏が存在することも確認された。第三点目の分析結果として、我が国では、大学やインキュベータが持つポテンシャルが地域経済圏活性化のために未だ活かされていないことが明らかとなった。

本論文における計量分析、欧米の成功した地域経済圏のフィールド調査と考察から、クラスター形成の基幹的な成功条件の抽出を行った。その結果、次の6条件に集約することが出来た。

条件1: 経済圏のビジョンに関する産学官の意識の統一と産学官の社会的な知縁ネットワークの形成

条件2: 知縁ネットワークへの大学・公的研究機関の引き込み

条件3: 起業家と知識モジュールとの仲介を行うインキュベータ等公的支援機関の機能強化
(「モジュール仲介型システム」の実装)

条件4: 産学官の知縁ネットワークのオープン化

条件5: 知識化社会に対応した地域教育力の強化

条件6: 知識を軸とした協働を積極評価する文化の醸成

地域経済圏毎に独自性のある戦略が必要であることも事実であるが、この6条件は、クラスター設計論の共通要素と考えることが出来る。これが本論文の提言である。

以上、地域経済活動という、複雑系のシステムについて、工学的な視点からモデル化を行い、それにより、経済活動の数値的な、構造分析と評価、また活性化の条件を実証的に導出して、提案している。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。